

ザグレブ大学哲学部インド・極東学科日本学コース設立10周年記念講演

2014年10月4日

在クロアチア日本国特命全権大使 井出敬二

(以下は英語で行った記念講演の内容(概略)を日本語訳したもの。)

尊敬するイバナ・フラニッチ哲学部副学部長  
尊敬するミスラブ・イェジッチ哲学部インド・極東学科長、  
ご列席の皆様、

本日は日本学コース設立10周年の大変おめでたい記念行事の場にお招きいただきありがとうございます。ザグレブ大学日本学コース(program in Japanology)開設10周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。また日本学コース開設にご尽力された先生方や、これまで日本語教育に携わってきた方々に厚く御礼申し上げます。

また本日のこの会合の主催者は、教師陣の皆様および日本学コース在学生・卒業生達から成る実行委員会、また、在学生・卒業生を中心とした友好団体である「誠」であることも、大変有意義なことと考えます。しかも団体「誠」は任意団体ではなく、クロアチアの法令に従って正式に非営利団体として登録されていることも知り、大変心強く感じました。

本日の聴衆の皆さんは日本研究コース在学生と卒業生の方々が中心なので、今後の皆さんにとって、日本と日本語がどのような意味をあるかについてお話ししたいと思います。その後皆様のご意見やご質問をお受けしたいと存じます。

ザグレブ大学哲学部では2004年にインド・極東研究学科が創設され、認定プログラムとして日本学コースが開設されました。

ザグレブ大学は、大学レベルで東京大学と、学部間レベルでは北海道大学、武蔵野大学と協力関係にあると承知しています。またそれ以外の日本の大学とも協力関係構築のための話し合いが進んでいるということも聞いています。

日本学コースを卒業生と在学生がこの10年間で250名以上になったことは大変大きな達成だと思います。この卒業生は日本にとっての宝であり、日本大使館そして日本が今後末永くおつきあいできるように、私として努力するつもりです。

日本学コースの卒業生の中には、東京大学、東京外国語大学、東京学芸大学、広島大学、大阪大学、中央大学等に留学された方もいます。

同コースの協力の下、日本語弁論大会も毎年ザグレブ大学で開催されています。

世界の文化や価値観が多様な中で、今日、世界経済におけるアジア地域の役割が急速に高まっています。世界のGDPにおいてアジアが占める割合は2009年が25%だったのに対し、2030年には40%に達するという推計もあります。クロアチアも当然、E

U経済のみに依存するのではなく、アジア経済と積極的に関与すべきです。このような状況の中で、10年前にインド・極東研究学科が創設されたことは非常に大きな意義があると思います。

数年前に日本の外務省は南東ヨーロッパの大学の日本語・日本学の先生達を集めて会議を開催しました。その報告書を私も読んだのですが、簡単にこの地域の状況を説明します。

南東ヨーロッパにおいてクロアチア以外の周辺諸国において日本語が大学でどのように教えられるようになったのかと言えば、以下のような状況になっています。

セルビア ベオグラード大学 1976年に日本語コース開設。1985年日本語学科設立。

ブルガリア ソフィア大学 1990年に日本語学科創設

スロベニア リュブリャナ大学 1995年に日本語学科創設

スロバキア コメニウス大学 2008年 東アジア研究学科創設

ギリシャ イオニア大学 2009年にアジア太平洋研究学部創設。

先ほどイェジッチ学科長のご挨拶の中で、これらの大学の間相互の連携を強化していきたいというお話がありましたが、同じアイデアも数年前の会議の中で話し合われています。日本大使館としては、そのためにお役に立てることがあれば行う所存です。

今後の活動についていくつかアイデアを申し上げますが、このアイデアを実現するためには皆さんからのイニシャチブとサポートが必要ですのでぜひご協力をお願いしたいと思います。

第一に、卒業生の皆さんには是非日本語の勉強を続けていただきたいと思います。

外国語を知ることは、その国の国民の発想を理解する上で非常に重要です。

そのためには日本語を話す機会が少ないことが問題だと思います。ザグレブに住んでいる日本人とも相談して、日本語を話す機会を設けていくとのアイデアを持っています。私の公邸はいつでもそのような会合に使っていただいても良いのですが、町の中心からは離れた丘の上にあり、少し不便かもしれません。場所についてはまた相談していく必要があります。いずれにせよ、皆さんの中から、そのような会合の組織をすることをボランティアで手伝っていただければ大変助かります。(注：本記念講演終了後の話し合いで、ザグレブ大学校舎を使って、平日午後または土曜にそのような会合をアレンジする方向で調整することとなった。)

第二に、皆さんが日本の文化により密接に接触できるようにしたいと思います。日本文化としてクロアチアで親しむことができるものは様々なものがあります。ユーゴスラビア

時代から俳句、折り紙はよく知られていました。現在は武道（柔道、空手、合気道、剣道、弓道、南部道）を楽しんでいるクロアチア人がザグレブ及び地方に多数います。クラブもできています。華道（いけばな）を教えてくださいと日本人女性がクロアチアに在住されています。茶道についてもこれから希望者に対して学ぶ機会を設けるつもりです。茶道に関心のある方と後ほど具体的に相談したいと思います。日本からも茶道関係者がクロアチアを来年春に訪問する計画を立てています。漫画、アニメ、コスプレのファンが沢山いることも承知しています。コスプレについては欧州大会や、日本での国際大会がありますので、それらに参加できるように応援していくつもりです。しかし漫画、アニメだけではなく日本の文化・芸術をもっと紹介したいと思います。たとえば日本では優れたドキュメンタリー番組や、社会問題のルポルタージュ番組が作られているので、それらも紹介したいと思います。日本で文化活動をしている一般の市民には、機会があれば、クロアチアに来て、皆さんと文化交流をしたいと希望している人が沢山います。もしそのような人たちが来たら、例えばホームステイ先を見つける等の支援をしていただくと大変助かります。

第三に、日本語を学んだ皆さんが就職しやすいようなお手伝いもしていきたいと思えます。日本企業のクロアチアへの投資と進出ですが、まず自動車や電化製品、機械などの輸出の面で販売店が多くクロアチアに設置されています。日本は世界各地に投資を行っており、たとえばクロアチアの近隣国であるポーランド、チェコ、ルーマニア等には数十社が工場などを設置し、それぞれ数万人の現地の人たちを雇用しています。EU全体では日本企業数千社が進出し、数十万人の雇用を生み出しています。この点でクロアチアは「祖国戦争」の影響などもあり、外国投資誘致で出遅れたために、日本からの直接投資もまだ低いレベルにとどまっています。それでも矢崎総業はザグレブに製品開発センターを設置しており、主にザグレブ大学を卒業した約90名の技術者が働いています。プロミンC火力発電所プロジェクトでは丸紅による大規模投資の可能性が出てきており、現在、正式契約を来年初めに結ぶべく、交渉の最終段階にあると承知しています。丸紅がクロアチアに進出すれば、更に日本企業がクロアチアに目を向けることは確かであり、そうすれば日本語を勉強した人たちの就職のチャンスも出てくると思います。

第四に、日本から観光客が沢山クロアチアを訪問しています。近年その数は増大しており、年間で5万人程度がクロアチアを訪問していると見えています。もっと多くの日本人が将来クロアチアを訪れるようになると思います。これらの方々を対象としての旅行業がもっと発展すると思います。そのため日本語に更に磨きをかけていただき、またガイドの資格をとっていただければ、旅行業の分野で仕事をもらえると思います。私はドブロヴニク、スプリット、ザダルを訪問した際に現地のガイドさんに案内してもらい、とても勉強になりました。その時は英語でした。おそらく日本語を話す現地のプロのガイドさんは、これらの海岸の人気のある町には殆どいないと思います。みなさんの中から、プロのガイドに

なる人が出てくるのを期待します。日本人は海岸でのんびりするためというよりも、クロアチアの歴史、文化、生活を知りたいという希望をもってクロアチアに来ます。従って、みなさんにもこれらをぜひ勉強していただく必要があります。

第五に、クロアチアの今後の発展のために、日本をもっと役立ててほしいと思っており、そのために皆さんが学んだ日本語と日本についての知識を活かして頂きたいと思います。地下鉱物資源等が乏しい日本が発展した前提である経済政策についても、クロアチアの今後の発展に大いに参考になると思います。またたとえば廃棄物処理についてクロアチアは90%以上のゴミが埋め立てられているとありますが、日本ではリサイクルが進んでおり、そのようなノウハウと技術をクロアチアで役立てて頂きたいと思います。

(パワーポイント・スライドで、リニア新幹線、水素自転車、介護ロボット、再生医療などの日本の最先端科学技術を紹介。)

第六に、日本大使館は日本から多くの講師などを招いて、ザグレブその他で講演会などを開催したいと考えています。その際には皆さんにもご案内を出すつもりです。

第七に、クロアチアは昨年7月にEUに加盟したので、日本・EU交流にクロアチアからも大いに積極的に参加していただきたいと思います。

教育・学術分野の協力として、エラスムス・プラス(修士課程)、ホライズン2020(博士課程)、マリー・スクロドヴスカ・キューリー・プログラム(研究者)や日本側の様々なプログラムにより、クロアチアと日本との間の教育・学術交流が支援されています。ザグレブ大学の幹部と意見交換した際に、日本との交流をEUの資金を利用して拡大できるように申請しているというお話がありました。相互のプログラムがもっと利用しやすくなるようにするための話し合いも日本とEUとの間で行われています。

今、日本・EU間のFTAの交渉が行なわれています。この交渉が成功すれば、日本製品が無関税でクロアチアに輸入されることになり、逆にクロアチア製品が無関税で日本に輸出できることとなります。日・クロアチアの経済関係の増進は、皆さんにとってもビジネスでの活躍の場を提供すると思います。

日本とEUとの協力について言えば、民主主義、人権、法の支配という普遍的価値は、日本とEUの双方に共有されています。世界の平和と安定、繁栄のために日本とクロアチアが協力して対応することが必要だと考えています。

(了)